

地婆訶羅（613-688）に関する中國史料

アントニーノ・フォルテ
(ナポリ東洋大學)

佛典の輸入翻譯者として著名な地婆訶羅（ディヴァーカラ）は、年代論的には玄奘（664年没）よりも後に位置し、そして、七世紀末から八世紀初の翻譯者であるインドの菩提流志（727年没）や、コータンの實叉難陀（652-710）、義淨（635-713）などよりも前に位置する人物である。

本稿では、(a) 地婆訶羅の傳に関する今日入手しうる諸史料の概説、(b) これら諸史料が我々に與えてくれる傳記情報の要約、(c) よく知られている『佛頂尊勝陀羅尼經』の二・三の異譯を地婆訶羅に歸せしめることから派生するいくつかの問題と、同經のいわゆる佛陀波利譯に對する地婆訶羅の參與問題、を提示する。

地婆訶羅の傳を示す證據として我々が信賴をおき得る文獻資料のいくつかは、少なくとも一つの碑銘に基づいている。残念ながら688年に龍門における地婆訶羅の墓用に刻されたはずの本來の墓の銘文がどんなものであったかを示す形跡はなにもなく、いかなる史料にも言及されていないのであるが、しかし、690年から705年の間に刻された碑文の形跡はある。その文章を書いたのは武三思かもしれない。彼は、則天武後の甥であり、龍門で地婆訶羅の亡骸を納めた八角塔の近くに香山寺の僧院の建設を推進した人物であった。地婆訶羅に関する現存傳記情報を可能な限り正確に再構築するために、本稿では上述諸史料とその相對的價値について論ずる。

Antonino FORTE アントニーノ・フォルテ

1940年生

ナポリ東洋大學文學部教授

主要著書 *Political Propaganda and Ideology in China at the End of the Seventh Century. The Hostage An Shigao and His Offspring. A Jewel in Indra's Net. "The Five Kings of India and the King of Kucha Who According to the Chinese Sources Went to Luoyang in 692"* ほか多数